

和訳

極東地域の渡り鳥専門家による高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)

に関する国際専門家会合

2011年6月23日 日本 東京にて

この会合は、(日本の)環境省が、バードライフ・インターナショナル、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ、及び国際湿地保全連合の後援のもと、国際獣疫事務局(OIE)アジア太平洋地域事務所と共同で開催したものです。

議事録

日本、モンゴル、中国、韓国、そしてロシア連邦から招かれた専門家は、渡り鳥やその他の野鳥について、及びH5N1亜型高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)についての各自の研究について発表した。

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップの役割として、渡り性水鳥及びそのフライウェイにおける生息地保全を促進していくとともに、アジア・太平洋地域渡り性水鳥・鳥インフルエンザに関する作業部会(Asia-Pacific Working Group on Migratory Waterbirds and Avian Influenza)の活動を通して、HPAIによる野鳥への脅威に対応する役割が認識された。

主な議論の結果は以下のような項目が含まれている。

1. HPAI 発生の動物伝染病学的研究において、野鳥がどのような役割／機能を果たしているか、ということに関して、現在私たちの理解は不足している。野鳥には渡り鳥と留鳥の双方に多数の種類があること、生息地も多様で更にそれがアジア中でも多様な環境下にあることを考えると、ウイルスが伝播及び維持されるうえでの野鳥の具体的な役割は、それぞれの地域によって多様であるだろうことが推測される。
2. 各国での野鳥における鳥インフルエンザウイルスのモニタリングと同様に、渡り鳥やその他の野鳥の野外モニタリングを強化することが必要である。
3. 以下の研究テーマは、HPAI ウイルスの蔓延における、鳥の役割、また気候変動や他の要因に起因する、鳥の渡りのパターンや分布域の変化の役割をより理解するために、また保全活動を支持するためにも、優先的に調査する必要がある。
 - ・ 全世界での大規模なリングング/バンディング(標識調査)、カラーマーキング、そして衛星追跡装置や位置情報通知などの進歩した追跡技術によって、野鳥が同国間・異国間を移動するパターンを識別(確認)すること。このような渡り鳥の調査活動を支持するために、カラーマ

- ・ キングに関する共通の手順を作成していく必要がある。
 - ・ 異なる生息地における、家禽の生産活動範囲に関連した、地域のおよび日常的な野鳥の移動パターン。
 - ・ 野鳥が年間の移動周期の中で立ち寄る重要な集団生息地の空間的及び時間的利用。
 - ・ 野鳥における HPAI 発生に影響を与える環境的ストレス、生理学的な要因及び人為的要因
 - ・ 特に野鳥と家禽の接点における、鳥インフルエンザウイルスの生態学的研究及び動物伝染病学的研究。
 - ・ HPAI の動物伝染病学的に、危険度の高い野鳥の種がもつ、可能性のある役割。
 - ・ 保全や疾病の調査のための野鳥についての研究成果を最大限に上げること。例えば、将来の研究のために標本・試料の保存を確実に維持すること、テレメトリーデータの保管と共有を改良すること、科学的な研究と実地調査を發表することにつながる。
4. 下記の最優先課題について、各専門家、各組織、そして各国が研究活動及び保護活動を維持するために、情報をタイムリーに且つ継続して共有することは極めて重要である。
- ・ 渡りのパターン(渡りの戦略や経路を含む)、鳥インフルエンザを発症する危険度の高い野鳥の種の生物学(動物相)。
 - ・ 野鳥に関する疾患の研究活動と研究成果。
 - ・ 野鳥と家禽類での HPAI の発生。
 - ・ それぞれの国際機関や国内機関が作成したインフルエンザ発症前の予防や発症後の制御のための基準に関する指針。
 - ・ 野鳥の重要な集団生息地の所在地やその使われ方についての時間的及び空間的情報。
5. アジア・太平洋地域渡り性水鳥・鳥インフルエンザに関する作業部会や OIE のような、自然管理、獣医及び調査機関や NGO の間でのタイムリーな情報共有をサポートするための情報交換のネットワークを強化することが必要である。
6. 野鳥を保護し、人獣共通感染症の蔓延を最小限に抑えるための、ラムサール湿地と国家的・国際的な重要湿地のよりよい管理を強化する仕組みが必要である。
7. 人獣共通感染症に対処するためには、生態系の健康、動物の健康そして公衆衛生の促進がいかに重要であるかということを広く認識することが必要となる。
8. 鳥の生息地と保護についての情報を、その土地の言語にして普及させていくことが優先事項である。